(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2004-16421
(P2004-16421A)
(43)公開日　平成16年1月22日(2004.1.22)

(51)Int.Cl.[7]	F I		テーマコード（参考）
A61H 7/00	A61H 7/00	320A	2D005
A47K 3/00	A47K 3/00	Z	4C094
A61H 37/00	A61H 37/00	A	4C100
A61H 39/04	A61H 39/04	J	4C101

審査請求 未請求　請求項の数 3　OL　（全 6 頁）

(21)出願番号　特願2002-174427(P2002-174427)
(22)出願日　平成14年6月14日(2002.6.14)

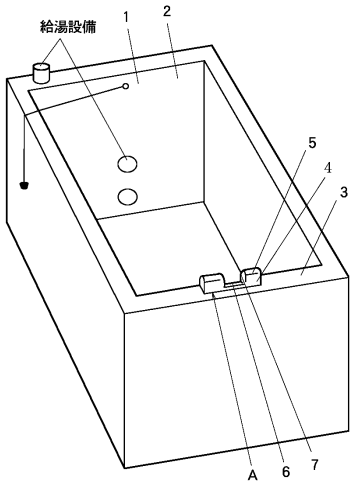
(71)出願人　595057188
軍司　重秋
埼玉県三郷市早稲田３丁目１９番地
(74)代理人　100077698
弁理士　吉田　勝広
(74)代理人　100098707
弁理士　近藤　利英子
(72)発明者　軍司　重秋
埼玉県三郷市早稲田三丁目十九番地

Fターム(参考)　2D005 FA02
4C094 AA01 BB16 DD14 EE20 EE31 GG03 GG13
4C100 AB02 AF02 BB01 CA17 DA01 DA04 EA10

最終頁に続く

(54)【発明の名称】頸部指圧用器具および該器具を有する浴槽

(57)【要約】
【課題】入浴時に頸部を指で挟むようにして集中的に指圧すると同様な効果を有する頸部指圧用器具および該器具を有する浴槽を提供すること。
【解決手段】本体の上側中央に所定の幅および深さの凹部を有し、該凹部の互いに内側に対向する両端部が球面状表面に形成され、上記凹部の幅および深さが、上記凹部に顔を上に向けて首を載せた場合、首の両側の頸部が指で挟むようにして押圧され、かつ首の下端が凹部の表面に接触しない幅および深さであることを特徴とする頸部指圧用器具、及び該器具を有する浴槽。
【選択図】　図１



【特許請求の範囲】
【請求項１】
本体の上側中央に所定の幅および深さの凹部を有し、該凹部の互いに内側に対向する両端部が球面状表面に形成され、上記凹部の幅および深さが、上記凹部に顔を上に向けて首を載せた場合、首の両側の頸部が指で挟むように押圧され、かつ首の下端が凹部の表面に接触しない幅および深さであることを特徴とする頸部指圧用器具。
【請求項２】
凹部の間隔が、調整可能である請求項１に記載の頸部指圧用器具。
【請求項３】
略矩形の浴槽と、該浴槽の周壁のうち、給湯口を有する周壁以外の１つの周壁の上面に、請求項１または２に記載の頸部指圧用器具が設けられていることを特徴とする頸部指圧用器具付き浴槽。
【発明の詳細な説明】
【０００１】
【発明の属する技術分野】
本発明は、入浴時において頭脳、項（うなじ）および首筋（以下纏めて「頸部」という場合がある）の疲労や凝りを回復させるための頸部指圧用器具および該器具を有する浴槽に関する。
【０００２】
【従来の技術】
従来、例えば、特開平９－２０１３０３号公報および実公平２－１９１００号公報に記載のように、浴槽の側壁頂部に、表面に半球状の凸部を多数設けた首置き部、あるいは首載せ部を設けた浴槽が知られている。この浴槽では首に指圧効果を与えることができるが、首のうちで最も凝りやすい頸部（うなじ）に集中的に指圧効果を与えることはできない。
【０００３】
また、実開昭６２－１０７８３５号公報には磁石付き風呂枕が記載されているが、この枕は磁石の効果を有し、かつ首筋に指圧効果を与えることができるが、前記と同様に首のうちで最も凝りやすい頸部（うなじ）に集中的に指圧効果を与えることはできない。
【０００４】
【発明が解決しようとする課題】
従って、本発明の目的は、入浴時に頸部を指で挟むようにして集中的に指圧すると同様な効果を有する頸部指圧用器具および該器具を有する浴槽を提供することである。
【０００５】
【課題を解決するための手段】
上記目的は以下の本発明によって達成される。すなわち、本発明は、本体の上側中央に所定の幅および深さの凹部を有し、該凹部の互いに内側に対向する両端部が球面状表面に形成され、上記凹部の幅および深さが、上記凹部に顔を上に向けて首を載せた場合、首の両側の頸部が指で挟むように押圧され、かつ首の下端が凹部の表面に接触しない幅および深さであることを特徴とする頸部指圧用器具を提供する。
【０００６】
また、本発明は、略矩形の浴槽と、該浴槽の周壁のうち、給湯口を有する周壁以外の１つの周壁の上面に、前記の頸部指圧用器具が設けられていることを特徴とする頸部指圧用器具付き浴槽を提供する。この浴槽では、入浴者が前記頸部指圧用器具の凹部に顔を上に向けて首を載せた場合、凹部両端の球面により、首の両側の頸部（ツボ）が押圧され、主として頸部の疲れや凝りが軽減される。
【０００７】
【発明の実施の形態】
次に図面を参照して好ましい実施の形態を説明する。
＜実施例１＞
本発明の１実施形態を、図１、図２および図３に基づいて説明する。

図１は、本発明の頸部指圧用器具付き浴槽の斜視図である。図２は、図１の部分拡大斜視図であり、図３は、頸部指圧用器具付き浴槽に入浴して頸部指圧用器具に頸部を載せた状態の側面図である。

【０００８】

図１および図２に示す例は、浴槽と頸部指圧用器具Ａとを一体形成したものである。頸部指圧用器具Ａの設置箇所は、浴槽の周壁の上面３であり、湯を沸かす設備がなく、また、入浴の妨げにならない箇所で、図３に示すように、人が入浴して浴槽の周壁の側面に背中を当て頭を真後に倒した時、頸部が上記器具Ａと直角に交差し、頸部を載せた場合の当該器具Ａと浴槽の周壁の内側側面との間隔を調整し、最適の箇所とする。

【０００９】

本発明を特徴づける頸部指圧用器具Ａは、図２の一部拡大図に示すように、本体４の上側中央に所定の幅および深さの凹部６を有し、該凹部６の互いに内側に対向する両端部７，７が球面状表面に形成され、上記凹部６の幅および深さが、上記凹部６に顔を上に向けて首を載せた場合、首の両側の頸部が押圧され、かつ首の下端が凹部６の底面に接触しない幅および深さであることを特徴としている。また、この頸部指圧用器具Ａにおいては、凹部６に首を載せる際に首に傷を付けないように、凹部６の両側の凸部の上側表面も半円柱状表面５とし、該表面５と前記表面７とが連続した曲面になるようにすることが好ましい。また、上記表面５と表面７とは、それぞれ本体４の厚みと同じ直径の円の曲率を有する表面とすることが好ましい。

【００１０】

以上のように凸部の内側端部７，７の間隔を、首の太さより狭くすることにより、凹部６に首を載せると、頭の重さにより、端部７，７が入浴者の首の両側の頸部を指で挟むようにして押した如き状態になり、自然と指圧効果が得られる。従って充分な指圧効果が得られるためには、端部７，７の間隔を、凹部６に首を載せた時に首の最下端と凹部６の底面との間に隙間ができるようにすることが好ましい。また、入浴者は、それぞれ首の太さが異なることから、図２に矢印で示すように、端部７，７を有する部分が本体４に対して、左右にスライドするように構成することが好ましい。

【００１１】

以上の例は、浴槽と頸部指圧用器具Ａとを一体形成した例であるが、既設の浴槽については、上記に述べた頸部指圧用器具Ａを浴槽と別に作製し、当該器具Ａを接着剤で浴槽の周壁の上面の適当な位置に固定してもよい。また、頸部指圧用器具Ａは、檜などの木材から形成してもよいし、合成樹脂や硬質ゴムから形成してもよい。

【００１２】

なお、以上の実施例において、一般家庭の浴室は、浴槽の三方が壁で隙間なく囲まれているが、前記実施例のごとき頸部指圧用器具Ａを用いる場合には、当該器具の付いている方の壁側には、首を後ろに倒しても首が壁に接触しない程度の空間をとる必要がある。

【００１３】

＜実施例２＞

本発明の別の実施例を図４および図５に基づいて説明する。図４は本実施例を示す鳥瞰図であり、大浴槽に３個（３個に限られない）の頸部指圧用器具Ａを設けた状態を示している。図５ｂは、台座８と一体形成した頸部指圧用器具Ａの斜視図である。図５ａは、台座８と一体成形した頸部指圧用器具Ａを有する浴槽の周壁の上面の部分平面図を示している。前記実施例１は、主に一人用の浴槽についてのものであるが、本実施例は多人数が入浴する大浴槽についての実施例である。

【００１４】

大浴場に頸部指圧用器具Ａを設置する箇所は、前記実施例１と同様に、給湯および入浴の妨げにならない浴槽の周壁上面３とする。多人数が入る大浴槽の殆どはコンクリート製が多いため、頸部指圧用器具Ａを固定するため、台座８と一体成形した頸部指圧用器具Ａを別に作製して、これを大浴槽の周壁上面３にセメントなどで固めて設置する。この場合も、頸部指圧用器具Ａの設置は、人が入浴して浴槽の周壁に背中を当てて首を後ろに倒した

とき、頸部と頸部指圧用器具Ａが直角に交差する位置とする。このように固定することによって、本発明の大浴場の浴槽とすることができる。

【００１５】

【発明の効果】

上記本発明によれば、入浴に際し、主として頸部に優れた指圧効果を与え、疲れや凝りなどを有効に低減することができる頸部指圧用器具および該頸部指圧用器具を有する浴槽を提供することができる。

さらに、人は高齢化に伴い、けい椎が次第に前傾するようになるが、本発明の頸部指圧用器具を有する浴槽に入浴して、頸部指圧用器具の凹部に首を載せると、頭の重みでけい椎が後ろに反り返る状態となり、これを繰り返すことにより高齢化に伴う前傾の予防効果もある。

【図面の簡単な説明】

【図１】実施例１の頸部指圧用器具付き浴槽の説明図。

【図２】図１の部分拡大図。

【図３】入浴時の頸部指圧用器具と頸部との位置関係の説明図。

【図４】実施例２の頸部指圧用器具付き浴槽の説明図。

【図５】台座に設けた頸部指圧用器具の説明図。

【符号の説明】

Ａ：頸部指圧用器具

１：浴槽の側面

２：浴槽の周壁の内面

３：給湯設備のない浴槽の周壁の上面

４：本体

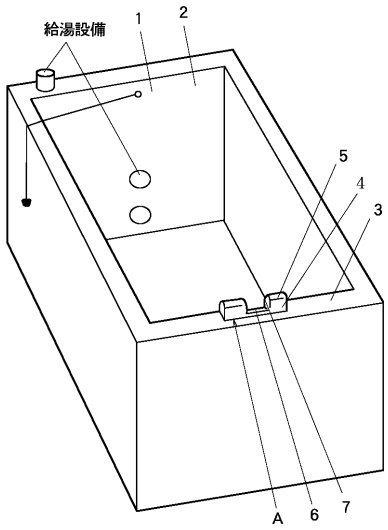
５：凹部の両側の凸部の半円柱状表面

６：凹部

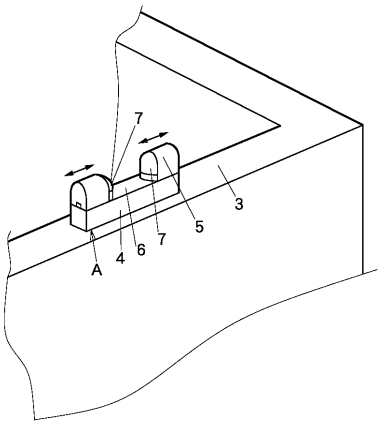
７：凹部内側端部の球状表面

８：頸部指圧用器具の台座

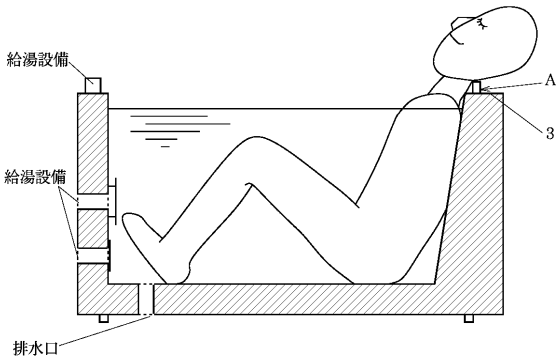
【図１】



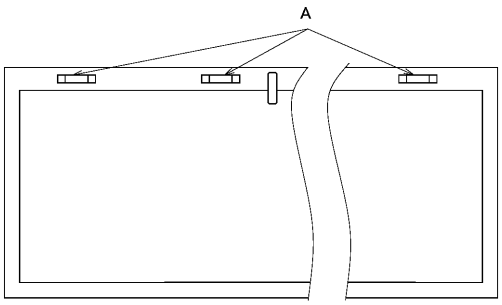
【図２】



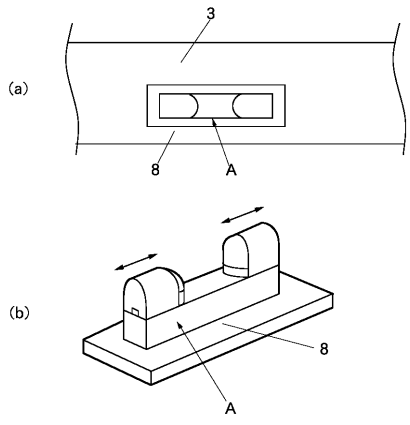
【図３】



【図４】



【図５】



フロントページの続き

Ｆターム(参考) 4C101 BA01 BB04 BB07 BB10 BB11 BC18 BD02 BD05 BD17 BD18
BE01